

# 貸借対照表

(2022年12月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	前年比	科目	金額	前年比
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>40,994,095</b>	<b>114.8%</b>	<b>流動負債</b>	<b>23,130,536</b>	<b>116.8%</b>
現金及び預金	4,970,454	66.8%	買掛金	13,916,069	120.3%
受取手形	533,551	133.6%	短期借入金	1,000,000	100.0%
売掛金	25,918,915	122.1%	未払金	183,089	79.2%
商品	5,195,030	191.6%	未払費用	264,984	109.0%
貯蔵品	347	106.2%	未払法人税等	656,504	95.9%
未収入金	449,035	106.5%	未払消費税等	1,309,413	135.1%
前渡金	3,765,945	114.0%	契約負債	5,371,843	111.9%
前払費用	80,350	104.9%	預り金	152,961	99.2%
その他の流動資産	80,464	64.8%	賞与引当金	146,627	97.8%
			その他流動負債	129,041	—
<b>固定資産</b>	<b>2,015,819</b>	<b>93.0%</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,703,577</b>	<b>107.7%</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>165,644</b>	<b>85.3%</b>	退職給付引当金	1,636,612	107.6%
建物	59,225	85.3%	役員退職慰労引当金	62,765	112.4%
工具器具備品	106,419	85.3%	その他の固定負債	4,200	85.7%
<b>無形固定資産</b>	<b>460,541</b>	<b>82.0%</b>	<b>負債合計</b>	<b>24,834,114</b>	<b>116.2%</b>
電話加入権	8,616	100.0%	<b>純資産の部</b>		
ソフトウェア	451,925	81.7%	<b>株主資本</b>	<b>18,070,055</b>	<b>111.2%</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,389,633</b>	<b>98.4%</b>	資本金	585,100	100.0%
投資有価証券	206,508	56.5%	資本剰余金	11,463	100.0%
敷金保証金	335,054	98.8%	資本準備金	11,463	100.0%
繰延税金資産	848,070	120.0%	<b>利益剰余金</b>	<b>17,473,656</b>	<b>111.7%</b>
			利益準備金	146,275	100.0%
			その他利益剰余金	17,327,381	111.8%
			別途積立金	5,250,000	105.0%
			繰越利益剰余金	12,077,381	115.0%
			<b>自己株式</b>	<b>△ 164</b>	<b>100.0%</b>
			自己株式	△ 164	100.0%
			<b>評価・換算差額等</b>	<b>105,744</b>	<b>40.7%</b>
			その他有価証券評価差額金	138,411	55.7%
			繰延ヘッジ損益	△ 32,666	—
<b>資産合計</b>	<b>43,009,915</b>	<b>113.5%</b>	<b>純資産合計</b>	<b>18,175,800</b>	<b>110.1%</b>
			<b>負債・純資産合計</b>	<b>43,009,915</b>	<b>113.5%</b>

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 損 益 計 算 書

〔 2022年 1月 1日から  
2022年12月31日まで 〕

(単位：千円)

科 目	金 額		前年比
売 上 高		114,881,160	97.3%
売 上 原 価		105,567,442	97.1%
売 上 総 利 益		9,313,717	99.5%
販売費及び一般管理費		5,801,664	105.9%
営 業 利 益		3,512,053	90.5%
営 業 外 収 益			
受 取 利 息	2,150		
受 取 配 当 金	2,100		
為 替 差 益	335,075		
そ の 他 の 営 業 外 収 益	1,261	340,586	403.1%
営 業 外 費 用			
支 払 利 息	9,245		
支 払 保 証 料	2,086		
そ の 他 の 営 業 外 費 用	2,283	13,615	72.1%
経 常 利 益		3,839,025	97.2%
特 別 利 益		—	—
特 別 損 失			
固 定 資 産 除 却 損	1,304	1,304	26.4%
税 引 前 当 期 純 利 益		3,837,720	97.2%
法人税・住民税及び事業税	1,255,814		
法 人 税 等 調 整 額	△ 73,247	1,182,566	100.3%
当 期 純 利 益		2,655,154	95.9%

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 株主資本等変動計算書

( 2022年 1月 1日から  
2022年12月31日まで )

(単位：千円)

	株主資本								自 株 式	株 主 資 本 計
	資 本 金	資本剰余金		利 益 準 備 金	利益剰余金			利 益 剰 余 金 計		
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 計		そ の 他 利 益 剰 余 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当 期 首 残 高	585,100	11,463	11,463	146,275	5,000,000	10,503,026	15,649,301	△164	16,245,700	
当 期 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当						△830,799	△830,799		△830,799	
別 途 積 立 金 の 積 立					250,000	△250,000	-		-	
当 期 純 利 益						2,655,154	2,655,154		2,655,154	
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)										
当 期 変 動 額 合 計	-	-	-	-	250,000	1,574,355	1,824,355	-	1,824,355	
当 期 末 残 高	585,100	11,463	11,463	146,275	5,250,000	12,077,381	17,473,656	△164	18,070,055	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当 期 首 残 高	248,608	10,953	259,562	16,505,262
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当				△830,799
別 途 積 立 金 の 積 立				-
当 期 純 利 益				2,655,154
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)	△110,196	△43,620	△153,817	△153,817
当 期 変 動 額 合 計	△110,196	△43,620	△153,817	1,670,537
当 期 末 残 高	138,411	△32,666	105,744	18,175,800

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 第33期 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

・・・・・・・・時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

・・・・・・・・移動平均法による原価法

##### ② デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ・・・・・・・・時価法

##### ③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商 品・・・・・・・・移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

貯 蔵 品・・・・・・・・最終仕入原価法によっております。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産・・・・・・・・定率法によっております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

② 無形固定資産・・・・・・・・自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産・・・・・・・・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

#### (3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金・・・・・・・・債権の貸倒による損失に備える為、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金・・・・・・・・従業員の賞与の支出に備える為、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

③ 退職給付引当金・・・・・・・・従業員の退職給付に備える為、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

④ 役員退職慰労引当金・・・・・・・・役員の退職慰労金の支出に備える為、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

#### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社は「お客様の課題に応じた商品・サービスを当社に蓄積された知見に基づき選定・提案し、お客様に利活用していただける環境を提供すること。」を、事業を行う上での基本的な付加価値と

位置付けております。この考え方を、収益を認識する上での基礎とし、下記の通り収益を認識しております。

#### ①売上の計上時期

製品の販売においては仕入先から調達しお客様へ提供することを履行義務として識別しており、当該資産に対する支配がお客様へ移転した時点で収益を認識しております。ただし、当社物流センターより出荷される国内販売取引については、当該資産の出荷からお客様へ支配が移転するまでの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

自営保守においては導入した機器やソフトウェア等について、メンテナンスやサポートをサービスとして提供することを履行義務として識別しております。それらは、契約によって一定期間にわたり履行義務が充足され収益を認識しております。

役務（構築サービス）においては1年を超える期間が長いものは無いため、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

#### ②複合取引の履行義務の識別

物販と役務（構築サービス）が同じ案件として注文を受領した場合、例えばストレージ機器などのシステム機器とその搬入据付設置など、お客様が個別に又は、他資源と容易に組み合わせることができることから、財またはサービスそれぞれについて、個別のものとして履行義務を識別しています。

#### ③本人・代理人の識別

他の当事者が関与している一部取引については、当該他の当事者により商品又はサービスが提供されるように手配することが当社の履行義務であり、代理人として取引を行っていると判断し、純額で収益を認識しております。

#### (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理をしております。

#### (6) 重要なヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法・・・原則として繰延ヘッジ処理によっております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象・・・ヘッジ手段・・・為替予約  
ヘッジ対象・・・外貨建予定取引
- ③ ヘッジ方針・・・・・・・・・・デリバティブ取引に関する内部規定に基づき、為替変動リスクを回避することを目的としております。
- ④ ヘッジの有効性評価の方法・・・ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ手段とヘッジ対象の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。なお、ヘッジ手段及びヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり相場変動を完全に相殺できると想定できる場合には有効性評価を省略しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引につ

いて、従来は、主に顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。なお、この適用による計算書類に与える影響はありません。

3. 会計上の見積りに関する注記

翌事業年度の計算書類に重要な影響を及ぼすリスクがある会計上の見積りはありません。

4. 貸借対照表等に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 1, 0 2 6, 3 5 8 千円

(2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

会社名			金 額
親会社	株式会社大塚商会	短期金銭債権	2, 672, 446 千円
		短期金銭債務	269, 108 千円

(3) 期末日満期手形

当事業年度末日は金融機関が休日のため、期末日満期手形については満期日に決済が行われたものとして処理しております。

受取手形 3, 2 1 2 千円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

会社名			金 額	
親会社	株式会社大塚商会	営業取引	売上高	23, 660, 373 千円
			仕入高	1, 879, 121 千円
			販売費及び一般管理費	57, 417 千円
		その他	営業取引以外の取引	2, 086 千円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式の数

普通株式 1 1, 7 0 2 株

(2) 当事業年度の末日における自己株式の数 0. 6 株

(3) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

2 0 2 2 年 3 月 1 8 日の定時株主総会において次のとおり決議されました。

- ① 配当金の総額 8 3 0, 7 9 9 千円
- ② 配当金の原資 利益剰余金
- ③ 1 株当たりの配当額 7 1, 0 0 0 円
- ④ 基準日 2 0 2 1 年 1 2 月 3 1 日
- ⑤ 効力発生日 2 0 2 2 年 3 月 2 2 日

(4) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2 0 2 3 年 3 月 1 7 日の定時株主総会において次のとおり決議されました。

- ① 配当金の総額 7 9 6, 8 6 5 千円
- ② 配当金の原資 利益剰余金
- ③ 1 株当たりの配当額 6 8, 1 0 0 円
- ④ 基準日 2 0 2 2 年 1 2 月 3 1 日
- ⑤ 効力発生日 2 0 2 3 年 3 月 2 0 日

## 7. 税効果会計に関する注記

### (繰延税金資産)

退職給付引当金	501,130千円
商品評価損	233,636千円
賞与引当金繰入超過	44,897千円
未払事業税	35,973千円
投資有価証券評価損	25,789千円
役員退職慰労引当金	19,218千円
その他	65,861千円
<u>繰延税金資産小計</u>	<u>926,507千円</u>
評価性引当額	△45,008千円
繰延税金資産合計	881,499千円

### (繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	△47,846千円
繰延ヘッジ損益	14,417千円
<u>繰延税金負債合計</u>	<u>△33,429千円</u>
繰延税金資産純額	848,070千円

## 8. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、主に銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である買掛金は、ほぼ3ヶ月以内の支払期日であります。借入金の使途は運転資金であります。

これら買掛金、借入金、未払法人税等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。また、デリバティブは内部管理規程に従い、為替予約取引を外貨建て買掛金の支払いの範囲で行うこととしております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2022年12月31日（当期の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金及び預金	4,970,454	4,970,454	—
② 受取手形	533,551	533,551	—
③ 売掛金	25,918,915	25,918,915	—
④ 投資有価証券	206,508	206,508	—
資産計	31,629,430	31,629,430	—
⑤ 買掛金	13,916,069	13,916,069	—
⑥ 短期借入金	1,000,000	1,000,000	—
⑦ 未払法人税等	656,504	656,504	—
負債計	15,572,574	15,572,574	—
デリバティブ取引(*)			—
ヘッジ会計が適用されていないもの	(81,957)	(81,957)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(47,084)	(47,084)	—
デリバティブ取引計	(129,041)	(129,041)	—

(\*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1. 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の試算又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①現金及び預金、並びに②受取手形及び③売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、レベル1の時価に分類しております。

④投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

⑤買掛金、並びに⑥短期借入金及び⑦未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、レベル1の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は為替予約取引であり、その時価については取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(注) 2. 市場価格の無い株式は「④投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下の通りです。

区分	当事業年度 (千円)
非上場株式	0

9. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高	
親会社	㈱大塚商会	直接 81.54%	役員の兼任	当社製品および役務の販売	23,660,373	売掛金	2,672,446	
			当社製品の販売				契約負債	293,490
			㈱大塚商会 販売製品の 購入	㈱大塚商会 販売製品の 購入	1,879,121 57,417	買掛金 未払金	264,744 4,205	
			債務被保証	仕入債務に対する債務被保証保証料の支払い	1,856,010 2,086	未払金	157	

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価格を提示し、価格交渉の上で決定しております。
2. 当社は、一部の仕入債務について、株式会社大塚商会より債務保証を受けております。取引金額については、期末の対象債務残高を記載しております。なお、保証料は毎月末の債務残高の0.1%を日数計算した金額を支払っております。
3. 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

10. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,553,301円36銭
- (2) 1株当たり当期純利益 226,909円12銭

11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。